

## 霊峰・大山が育む豊かな水の物語



広大なブナ林を抱える霊峰・大山は多くの人を魅了する

大山は「<sup>ほうき</sup>伯耆富士」「出雲富士」とも呼ばれ、富士山に似た美しい山容で有名な山だ。しかし、豊富なブナ林を抱え、山嶺の街に豊かな天然の水をもたらしていることを知る人はそう多くない。伯耆町や米子市といった大山の麓の街を訪ね、名水とともに暮らす人々に出会う旅を楽しむ。

### 縄文時代から続く 大山の歴史に守られたブナ林

鳥取県西部に位置する中国地方の最高峰、大山(だいせん:1,729メートル)。「大山どり」や「大山ブロッコリー」、肉質日本一に輝いた「大山黒牛」といった地域食材のブランド名に用いられ、その名をよく耳にするようになった。

しかし、西日本最大級のブナ林が山腹一帯に広がり、日本有数の“名水の里”であることはあまり知られ

ていない。大手飲料水メーカー2社が天然水の工場を構える地だというのに…。

大山の名水がこれまで守られてきたのには歴史的な背景がある。

縄文そして弥生の時代から大山は「大なる神の在ます山」として人々から崇められてきた。最盛期には比叡山延暦寺(滋賀県大津市)などと同規模の3,000人を超える僧兵を抱えるほどの大きな信仰の場であったと言われ、大山は江戸時代が終わるまで霊峰として一般の人々が入山する

ことができなかった。そのため、大規模な伐採などが行われず、保水力に優れた手つかずのブナの原生林が残る貴重な場所となったのだ。

### 水や緑はあって当たり前のも ではなく貴重なもの

大山山嶺のブナ林には、樹齢300年から400年にもなる貴重なブナが多く残る。100名ほどのメンバーでブナ林の保全活動を行う「大山ブナを育成する会」の会長・吉岡氏に話を聞いた。

会では1,000本ほどの苗を育て、年に200~300本の植樹をするという。ブナのタネが拾える実は3、4年に一度しかできず、7年間タネが拾えない時もある。そのため1,000本程度の

苗を常に育てておかなければいけない  
そうさ。

ブナは樹齢50年を超えないと花  
が咲かず、その後20年間はタネをつ  
けても芽が出ない。つまり、樹齢70  
年以上の木でなければ子孫を残すこ  
とができないという。大山山嶺で当  
たり前のように存在しているブナ林  
だが、一度失われると取り戻すまで  
に多くの労力と時間がかかる。当然  
のことながら、ブナ林が失われれば  
美味しい水も食べ物も、農家の職な  
どもすべて失われてしまうのだ。

### 水は酒造りの要の1つ 大山の水でこだわりの酒を

大山山嶺の伯耆町にあるくめざくら  
大山ブルワリーは、地下150メート  
ルから大山の豊かな地下水を汲み上  
げ、地ビールと日本酒を造る。レギュ  
ラービールを筆頭に、ピルスナー、ス  
タウト、パールエール、ヴァイツェン  
をラインナップするクラフトビール  
「大山Gビール」などを製造し、ヴァ  
イツェンは2011年ワールド・ビア・ア  
ワードで世界一の座を獲得した逸品  
だ。この受賞がきっかけとなり、大  
山の水を使ったものづくりは脚光を  
浴び始めたとも言われている。

大山の水が持つ個性を活かした日  
本酒造りにも挑戦中だ。通常行われ  
る、汲み上げた水の成分調整の工程を  
廃し、伯耆町のミネラル分が多い地下  
水をそのまま使って、このブルワリー  
特有の酒造りを目指す。一般に、人気  
の高い大吟醸酒などは、米の磨きを多  
くして米の雑味を減らすことで、すっ  
きりとほんのり甘みが残る酒となっ  
ているが、くめざくら大山ブルワリー  
はこれと逆行するかのよう、酸味苦  
味など米本来の味が堪能できる酒を  
造るという。乳酸を使う安定した発  
酵工程を選ばず、自然の力を利用した  
日本古来の生酛造りにこだわり、手間  
と時間をかけて個性を打ち出した酒  
造りに舵を切った。

杜氏の樋口氏は「わざわざそうし  
たやり方にするのは、この土地でし  
かできない味を表現したいから」と  
話す。そうしたものづくりは、大阪  
や東京などの高い感性を持つ飲食店  
オーナー達に評価され始めてきたと  
いう。「山陰、鳥取、大山の味を根っ  
この部分から少しずつ知っていつて  
もらっています」と樋口氏は目を輝  
かせた。

### 大山の恵みを享受する 浄水場がいない街・米子

大山の恵みを存分にいただく鳥取  
県西部では、酒だけでなく高品質の  
食材も多く生み出されている。

水が豊かな土地は美味しいお米を  
育み、この地で採れる「大山プロッ  
コリー」は2018年、松坂牛や夕張メ  
ロンなどのように地理的表示(GI)  
に登録された。水をはじめ大山黒ボ  
ク土などのおかげで、さまざまな農  
作物は美味しいと評判だ。そうした  
場所で採れた牧草などをエサとする  
「大山どり」や「大山黒牛」の畜産物  
も評価が高い。

知る人は多くはないが、この辺り  
の海底では大山の伏流水がわき出  
し、他の海域と比べて海水のミネラ  
ル分が豊富で水温も低めという。こ  
うした環境は海産物にも良い影響を  
与え、山陰の近海は豊富な海の幸が  
揃う魚介好きにはたまらないエリア  
とも言われている。

そんな鳥取県西部の中心都市が米  
子市だ。大山の麓に広がる山陰の商  
都は、人口およそ14万人。驚くこと  
に、これくらいの規模の街なら浄水  
場の1つもあっていいようなものだ  
が、米子市にはそれが無い。消毒は  
するものの大山の地下水がそのまま  
各戸に届けられている。

大山が育んだ水は、こんな身近なと  
ころにも恵みをもたらしているのだ。

協力/大山ブナを育成する会、くめざくら大山  
ブルワリー (<http://g-beer.jp/>)



飲料水メーカーが拠点を構える奥大山エリア  
の木谷沢は、大山の水の豊かさを象徴するよ  
うな存在感がある



緑豊かなブナ林を抜けていく大山の登山道は  
多くの登山客を癒してくれる



26年間で約4,000本ものブナの苗木を植えて  
きた、「大山ブナを育成する会」会長の吉岡氏



数年かけて大切に育ててきたブナの苗木を、  
地元の子供と共に植えていく



地元で長く愛される日本酒を育んできた大山  
の名水は、世界一のビールも生み出した